

がん対策関連の会議について(案)

	がん対策推進協議会	がん検診のあり方に関する検討会	小児がん医療・支援のあり方に関する検討会	がん診療提供体制のあり方に関する検討会(仮称)	緩和ケア推進検討会
	協議会で議論すべき事項について(案)				
H24 4月					1回目(4月25日)
5月	33回(5月17日)	1回目(5月28日)	1回目(5月24日)		2回目(5月30日)
6月			2回目(6月12日) 3回目(6月25日)		
7月	34回(7月17日)	2ヶ月に1回程度のペース			3回目(7月11日)
8月			小児がん拠点病院(仮称)の 指定要件の提示 ↓ 募集、審査	7-8月頃から開始予定	月1回程度のペース で開催予定
9月	2ヶ月に1回程度の ペースで開催予定			2ヶ月に1回程度のペース	
10月			指定に関する検討会 ↓ 拠点病院の指定		
11月					
12月					

その他、「第3次対がん10か年総合戦略」が平成25年に終了することから、今後のがん研究のあるべき方向性と具体的な研究事項等を明示する新たな総合的ながん研究戦略を策定するための戦略会議についても平成24年秋頃に立ち上げる予定。



## 「緩和ケア推進検討会」開催要綱

### 1. 趣旨

がん患者とその家族が可能な限り質の高い生活を送れるよう、緩和ケアをがんと診断された時から提供するとともに、診断、治療、在宅医療など様々な場面で切れ目なく実施することが重要である。

しかしながら、日本では未だがん性疼痛の緩和等に用いられる医療麻薬の消費量が少ないことや、がん医療に携わる医師が緩和ケアの重要性を十分に認識していないこと、国民に対しても未だ緩和ケアに対する正しい理解や周知が進んでいないこと等の課題が指摘されている。

本検討会においては、こうした課題や緩和ケアの現状を踏まえ、今後の緩和ケア対策について、俯瞰的かつ戦略的な対策等を検討し、今後の対策に反映していくこととする。

### 2. 検討事項

#### (1) 下記事項に関する具体的な対策

- ・がん診療に緩和ケアを組み入れた診療体制の構築
- ・がん性疼痛の克服
- ・緩和ケアチームや緩和ケア外来等の診療機能の向上
- ・在宅緩和ケアの質の向上や医療連携の推進

#### (2) その他、緩和ケアの充実に向けた具体的な対策について 等

### 3. その他

- (1) 本検討会は健康局長が別紙の構成員の参集を求めて開催する。
- (2) 本検討会には、構成員の互選により座長をおき、検討会を統括する。
- (3) 本検討会には、必要に応じ、別紙構成員以外の有識者等の参集を依頼することができるものとする。
- (4) 本検討会は、原則として公開とする。
- (5) 本検討会の庶務は、厚生労働省健康局がん対策・健康増進課が行う。
- (6) この要綱に定めるもののほか、本検討会の開催に必要な事項は、座長が健康局長と協議の上、定める。

## 「緩和ケア推進検討会」 構成員名簿

いけなが 池永	まさゆき 昌之	淀川キリスト教病院ホスピス科 部長
いわせ 岩瀬	さとる 哲	国立大学法人東京大学医学部付属病院緩和ケア診療部 副部長
おおにし 大西	ひでき 秀樹	埼玉医科大学国際医療センター一精神腫瘍学 教授
おがわ 小川	せつろう 節郎	日本大学医学部麻酔科学系麻酔科学分野 教授
かがや 加賀谷	はじめ 肇	明治薬科大学臨床薬剤学教室 教授
きざわ 木澤	よしゆき 義之	国立大学法人筑波大学医学医療系臨床医学域 講師
こまつ 小松	ひろこ 浩子	慶応大学看護医療学部慢性臨床看護学 教授
たむら 田村	さとこ 里子	東札幌病院診療部 副部長
なかがわ 中川	けいいち 恵一	国立大学法人東京大学医学部附属病院放射線科 准教授
はなおか 花岡	かずお 一雄	JR 東京総合病院 名誉院長
ほそかわ 細川	とよし 豊史	京都府立医科大学附属病院疼痛緩和医療部 部長
まえかわ 前川	いく 育	特定非営利活動法人周南いのちを考える会 代表
まつづき 松月	みどり みどり	公益社団法人日本看護協会 常任理事
まつもと 松本	ようこ 陽子	特定非営利活動法人愛媛がんサポートおれんじの会 理事長
みちなが 道永	まり 麻里	社団法人日本医師会 常任理事
むとう 武藤	しんすけ 真祐	医療法人社団鉄祐会 理事長

(五十音順・敬称略)

## 「がん検診のあり方に関する検討会」開催要綱

### 1. 趣旨

がん検診は健康増進法に基づく市町村の事業として行われている。がん検診の実施については「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」（平成20年3月31日付け健発第0331058号厚生労働省健康局長通知）を定め、市町村による科学的根拠に基づくがん検診を推進しているところである。また、がん検診受診率向上に向け、平成21年度よりがん検診無料クーポンと検診手帳の配布や、企業との連携の促進、受診率向上のキャンペーン等の取組を行ってきた。

しかしながら、がん検診については、科学的根拠に基づくがん検診の実施について十分でないこと、検診受診率についても依然として諸外国に比べ低いこと等の課題が指摘されている。

本検討会においては、国内外の知見を収集し、科学的根拠のあるがん検診の方法等について検討を行うとともに、受診率向上施策について、これまでの施策の効果を検証した上で、より効率的・効果的な施策等を検討することとする。

### 2. 検討事項

- (1) がん検診の項目について
- (2) がん検診受診率向上に向けた施策について
- (3) がん検診の精度管理・事業評価について

### 3. その他

- (1) 本検討会は健康局長が別紙の構成員の参集を求めて開催する。
- (2) 本検討会には、構成員の互選により座長をおき、検討会を統括する。
- (3) 本検討会には、必要に応じ、別紙構成員以外の有識者等の参集を依頼することができるものとする。
- (4) 本検討会は、原則として公開とする。
- (5) 本検討会の庶務は、厚生労働省健康局がん対策・健康増進課が行う。
- (6) この要綱に定めるもののほか、本検討会の開催に必要な事項は、座長が健康局長と協議の上、定める。

「がん検診のあり方に関する検討会」 構成員名簿

- 大内 憲明 国立大学法人東北大学医学部医学系研究科長・医学部長
- 菅野 匡彦 東京都八王子市健康福祉部地域医療推進課課長補佐  
兼主査(成人健診・がん検診担当)
- 斎藤 博 独立行政法人国立がん研究センター  
がん予防・検診研究センター検診研究部部長
- 祖父江 友孝 国立大学法人大阪大学医学系研究科環境医学教授
- 福田 敬 国立保健医療科学院研究情報支援研究センター  
上席主任研究官
- 松田 一夫 財団法人福井県健康管理協会副理事長
- 道永 麻里 社団法人日本医師会常任理事

(五十音順・敬称略)

## 「小児がん医療・支援のあり方に関する検討会」開催要綱

### 1. 趣旨

「がん」は小児の病死原因の第1位である。小児がんの年間患者数は2000人から2500人と少ないが、小児がんを扱う施設は約200程度と推定され、小児がん患者が必ずしも適切な医療を受けられていないことが懸念されている。

本検討会においては、小児がん患者とその家族が安心して適切な医療や支援を受けられるような環境の整備を目指し、小児がん拠点病院（仮称）に必要とされる機能及び全国の小児がん関連施設に対する診療、連携、臨床試験の支援等の機能を担う中核的な機関のあり方等について検討する。

### 2. 検討事項

- (1) 小児がん拠点病院（仮称）に必要とされる機能について
- (2) 小児がんの中核的な機関のあり方について

### 3. その他

- (1) 本検討会は健康局長が別紙の構成員の参集を求めて開催する。
- (2) 本検討会には、構成員の互選により座長をおき、検討会を統括する。
- (3) 本検討会には、必要に応じ、別紙構成員以外の有識者等の参集を依頼することができるものとする。
- (4) 本検討会は、原則として公開とする。
- (5) 本検討会の庶務は、厚生労働省健康局がん対策・健康増進課が行う。
- (6) この要綱に定めるもののほか、本検討会の開催に必要な事項は、座長が健康局長と協議の上、定める。

「小児がん医療・支援のあり方に関する検討会」 構成員名簿

- 天野 慎介 特定非営利法人グループ・ネクサス理事長
- 小俣 智子 武蔵野大学人間科学部社会福祉学科准教授
- 垣添 忠生 公益社団法人日本対がん協会会長
- 田口 智章 国立大学法人九州大学大学院医学研究院小児外科教授
- 邊見 公雄 公益社団法人全国自治体病院協議会会長
- 三浦 絵莉子 聖路加国際病院こども医療支援室チャイルド・ライフ・スペシャリスト
- 水谷 修紀 国立大学法人東京医科歯科大学小児科教授
- 道永 麻里 社団法人日本医師会常任理事

(五十音順・敬称略)